

# 思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫

## ～思考ツールや ICT 機器の効果的な活用方法～

### 主題設定の理由

本校ではこれまで、算数科を中心にペア学習やグループ学習など、友だちと関わり合いながら学習を行ったり、算数用語を使って自分の考えを表現したりするなど、友だちから学ぶ授業づくりに取り組んできた。しかし、平成 30 年度全国学力・学習状況調査の本校の結果によると「わからない時、諦めずにいろいろな方法で考えているか」、「算数と生活の結びつきを感じているか」、「(理科の)観察や実験の結果から、どのようなことがわかったか考えているか」についての肯定的な回答は、全国と比べると低かった。

次年度より本格実施される学習指導要領の改訂のポイントの一つに「知識の理解の質を高め資質・能力を育む『主体的・対話的で深い学び』」があり、「『何ができるようになるか』を明確化」するために「知・徳・体にわたる『生きる力』を子供たちに育むため、『何のために学ぶのか』という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理」とある。

また、平成31年4月17日、中央教育審議会から出された「新しい時代の初等中等教育の在り方について(諮問概要)」には、「Society5.0時代の教育・学校・教師の在り方」として以下のようにある。

●Society5.0 時代には、①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要

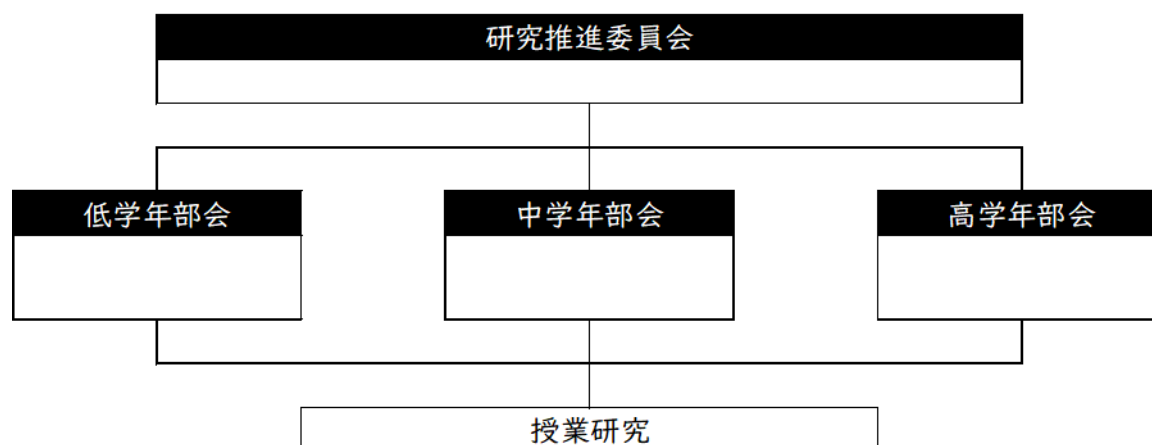
さらに、2020 年度より実施される「大学入学共通テスト」の実施方針では、その目的として

(前略)各教科・科目の特質に応じ、知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うものとする。

以上2点から、本校の子どもたちに必要なことは、個別の事実的な知識の習得だけでなく、習得した知

識・技能の相互につながりを持たせ、さらに社会の中で生きて働くようにつなげていくことだと考える。そして、習得した知識や技能を使っていくために必要な力こそが、「思考力・判断力・表現力」である。学校教育目標「つながりを大切にし、学習や生活を高め合う子の育成」の実現に向け、学校での学びが子ども達の未来につながっていることを意識しながら、未来を生きぬく子ども達に、授業を通して「思考力・判断力・表現力」をつけていくためには、どのような工夫が考えられるのか。思考ツールや ICT 機器の効果的な活用方法を通して検証していくこととする。

## 研究組織



次世代育成のため、各部会リーダーに若手を、その若手をサポートするためにアドバイザーとして研究推進委員会のベテラン層を配置する。

年4回の全校授業研と全体研修は全員で行うが、それ以外の研修は部会ごとに行う。研修開催日、時間、内容、方法を部会ごとに設定し、運営は部会リーダーが中心となる。研修内容の例として「学習指導等(板書・語り・模擬授業等)」「生活指導(褒め言葉・模擬電話対応等)」「学級経営(学級通信交流等)」「校務の処理」などが考えられる。年度初め・夏休み・2月末の3回、全体研修を行い、各部会の取り組み状況について報告会をもつ。